

年  組  番 名前

教材 6 - F - (1) 近世の様子 (ワークシート) 教材 6 - A ~ 教材 6 - E のそれぞれの説明文がどこに入るかを考えて、まとめてみよう。

安土・桃山時代		江戸時代				
(1573 ~ 1603)		家康 ~ 家光 (1603 ~ 1651)	享保の改革 (徳川吉宗) (1716 ~ 1745)	寛政の改革 (松平定信) (1787 ~ 1793)	天保の改革 (水野忠邦) (1841 ~ 1843)	幕末 (ペリーの来航以降) (1853 ~ 1867)
社会の様子	<p>パン、カステラ、カルタ、時計などが日本にもたらされ、宣教師たちによって天文学や医学、航海術などの新しい技術も伝わった。</p> <p>当初キリスト教の宣教師は優遇されていたが、長崎がイエズス会に寄進されていたことで領土的野心をうたがわれ、宣教師は国外追放を命じられた。</p>	<p>武士と百姓・町人に大きく分かれ、江戸や各地の城下町には武士と町人が集められるようになった。</p> <p>大名を親藩、譜代大名、外様大名にわけ、藩を取りつぶしたり領地がえを行うなどして大名の配置を工夫し始めた。</p> <p>幕府は江戸の日本橋に始まる五街道の整備に努め、街道には宿場を、箱根などの要所には関所をおいた。</p> <p>。改宗したキリスト教徒やその親類を監視するとともに、キリスト教徒を監視するために踏み絵を行い始めた。</p>			<p>大商人や地主の中には、工場をつくり、人をやとって分業で製品をつくるしくみであるマニユファクチュア (工場制手工業) を行うものが現れた。</p>	<p>全国で「世直し」を期待して農民による一揆がおこり、「ええじゃないか」といって人々が熱狂するさわぎが各地で流行した。</p>
外交の様子	<p>南蛮貿易がさかに行われ活版印刷術も伝えられ、聖書など布教に必要な書物や「平家物語」などの日本の書物がローマ字で印刷された。</p> <p>明の征服をめざして諸大名に命じ朝鮮に15万人の大軍を派</p>	<p>対馬藩 (長崎県) の努力で日本と朝鮮の間の国交が回復し、將軍の代がわりごとなどに朝鮮通信使と言われる祝賀の使節が派遣されるようになった。</p> <p>日本の渡航を許す朱印状を発行し、ルソン、安南 (ベトナム)、</p>	<p>キリスト教に関係しない科学技術などのヨーロッパの書物の輸入を認めた。</p>		<p>幕府は、アヘン戦争で清がイギリスに敗北したことを知ると異国船打払令をやめ、寄港した外国船にはまきや水を与えるように命じた。</p>	<p>尊皇攘夷の中心であった長州藩は、下関 (関門) 海峡を通る外国船を砲撃し、海峡を封鎖した。</p> <p>アメリカ、イギリス、フランス、ロシア、オランダと条約を結び、函館、神奈川 (横浜)、長</p>

	<p>遣したが、日本の軍勢は苦戦し最後は全軍が引き上げた。</p>	<p>カンボジア、シャム（タイ）などに朱印状を持った船（朱印船）の保護を依頼した。</p> <p>平戸のオランダ商館を長崎の出島に移し、以後は中国船とオランダ船だけが長崎で貿易を許されるようになった。</p> <p>それまで独立国だった琉球王国（沖縄県）は、薩摩藩（鹿児島県）に攻められて服従したが、国際的には独立国で、明や清にも朝貢し、貿易を行っていた。</p>				<p>崎、新潟、兵庫（神戸）の5港を開いて自由な貿易を行うことを認めた。</p>
<p>政治の様子</p>	<p>城下に楽市・楽座の政策によって商人を招き、座や各地の関所を廃止し商工業の発展を図った。</p> <p>検地帳に登録された農民だけに土地の所有権を認めると同時に、農民や寺社から刀や弓、やり、鉄砲などの武器を取り上げた。</p>	<p>武家諸法度という法を定め、大名が許可なく城を修理したり、大名どうしがが無断で縁組みをしたりすることを禁止した。</p> <p>公事方御定書という裁判の規準となる法を定め、庶民の意見を聞く目安箱を設置した。</p>	<p>参勤交代で大名が江戸にいる期間を1年から半年に短縮するかわりに、1万石につき100石の米を幕府に納めさせる上米の制を定めた。</p> <p>それまでまちまちだった、ものさしやますを統一するとともに、全国の田畑の面積や土地のよしあしを調べ、予想される収穫量を石高であらわした。</p>	<p>江戸の湯島に昌平坂学問所をつくり、ここでは朱子学以外の学問を教えることを禁じ、試験を行って人材の登用を図った。</p> <p>江戸などに出てきた農民を故郷に帰し、凶作やききに備えるため各地に倉を設けて米をたくわえさせ、商品作物の栽培を制限した。</p>	<p>政治批判や風紀を乱す小説の出版を禁止し、また物価の上昇をおさえるため、営業を独占している株仲間に解散を命じた。</p>	<p>日米和親条約を結び、下田（静岡県）と函館（北海道）の2港を開き、アメリカの船に食料や水、石炭などを供給することを認めた。</p> <p>領事裁判権を認め、関税自主権がない不平等な条約を、アメリカ、フランス、ロシア、オランダ、イギリスと結んだ。</p>
<p>出来事</p>	<p>当時の権力者は、堺などの自治都市や比叡山延暦寺、一向一揆など自分に従わない仏教勢力には厳しい態度でのぞみ屈服させた。</p>	<p>日本人の海外渡航は禁止され、海外在住の日本人の帰国も禁止された。またポルトガル人を出島に移すなど鎖国が完成した。</p>		<p>ロシアの使節ラクスマンが蝦夷地の根室に来航し、漂流民大黒屋光太夫を送り届け通商を求めてきた。</p>		<p>貿易が始まると日本からは生糸や茶などが輸出されるようになり、貿易商人に買い占められ人々は値上がりに苦しんだ。</p>

<p>当時の権力者は朝廷から関白に任命され、その後関東の北条氏をたおし、奥羽<small>あうう</small>の大名も従ったので全国統一を完成させた。</p>	<p>当時の権力者は2度にわたる大坂の陣で豊臣氏<small>ほうしん</small>を滅ぼし、幕府の権力を確立させた。</p>				<p>幕府に反対する尊皇攘夷運動<small>そんのうじょうい</small>がさかんになると、それらの大名や武士、公家などを処罰した安政の大獄<small>たいごく</small>がおきた。</p> <p>天皇を中心とする政治にもどすことを宣言すると同時に、將軍の政治的な影響力を除くため官職や領地の返上を命じた。</p>
<p><b>安土・桃山時代</b> (1573 ~ 1603)</p>	<p><b>江戸時代</b></p>				
	<p>家康 ~ 家光 (1603 ~ 1651)</p>	<p>享保の改革 (徳川吉宗) (1716 ~ 1745)</p>	<p>寛政の改革 (松平定信) (1787 ~ 1793)</p>	<p>天保の改革 (水野忠邦) (1841 ~ 1843)</p>	<p>幕末 (ペリーの来航以降) (1853 ~ 1867)</p>